

◆学校沿革史概要

明治 25. 5. 1	兆民尋常小学校として現在地に開校
大正元. 10	兆民・向岡・旭仁の3校合併し多摩村立尋常高等小学校を設立(員取1727番地)第二分教場となる
昭和 22. 4	多摩村立第二分教場と改名(学級数 4)
昭和 38. 4	多摩村立多摩第二小学校となる(学級数 7・児童数 271名) 初代校長 堀内安雄着任 5月校章制定 9月校歌制定
昭和 39. 4	町制施行に伴い、多摩町立多摩第二小学校と改名
昭和 42. 4	第2代校長 奥田 勉着任(学級数 15・児童数 588名)
昭和 46. 4	第3代校長 菊池秀光着任(学級数 25・児童数 999名)
昭和 46. 11	市制施行に伴い多摩市立多摩第二小学校と改名
昭和 47. 11	開校 10周年記念式典
昭和 50. 4	第4代校長 大坪巳六着任(学級数 24・児童数 923名)
昭和 53. 4	第5代校長 市村昭明着任(学級数 19・児童数 710名)
昭和 54. 4	第6代校長 菅間一蔵着任(学級数 21・児童数 760名)
昭和 57. 5	開校 20周年記念式典
昭和 61. 4	第7代校長 松田昭雄着任(学級数 18・児童数 628名)
昭和 63. 4	第8代校長 吉田信夫着任(学級数 18・児童数 618名)
平成 02. 4	第9代校長 向山隆昭着任(学級数 18・児童数 564名)
平成 04. 11	開校 30周年記念式典
平成 06. 4	第10代校長 水沢靖直着任(学級数 17・児童数 521名)
平成 09. 4	第11代校長 土方邦男着任(学級数 16・児童数 490名)
平成 14. 4	第12代校長 北島一蔵着任(学級数 18・児童数 577名)
平成 17. 1	多摩市研究奨励校研究発表会
平成 17. 4	第13代校長 藤田正春着任(学級数 19・児童数 660名)
平成 20. 11	東京都教育委員会人権尊重教育推進校研究発表会
平成 21. 4	電ヶ峰小学校と多摩第二小学校統合(開校記念日 5月2日に) 第14代校長 後藤信行着任(学級数 21・児童数 764名)
平成 22. 2	多摩市研究奨励校研究発表会
平成 23. 1	ユネスコスクール加盟
平成 24. 4	第15代校長 佐島 規着任(学級数 24・児童数 803名)
平成 25. 11	開校 50周年記念式典
平成 26. 9	校舎建替工事(平成28.3 新校舎完成 平成29.8 新校庭完成)
平成 29. 2	東京都小学校理科教育研究会協力校 多摩市公立学校研究奨励校研究発表会
平成 29. 4	自閉症・情緒障害「いし組」開設
平成 29. 10	第50回記念 全国小学校理科研究会協議会研究大会 東京大会 多摩市公立学校研究奨励校研究発表会
令和 2. 4	第16代校長 吉田正行着任(学級数 21・児童数 533名)
令和 3. 4	GIGA スクール構想 iPad 1人1台導入
令和 5. 4	第17代校長 井戸しのぶ着任(学級数 21・児童数 495名)

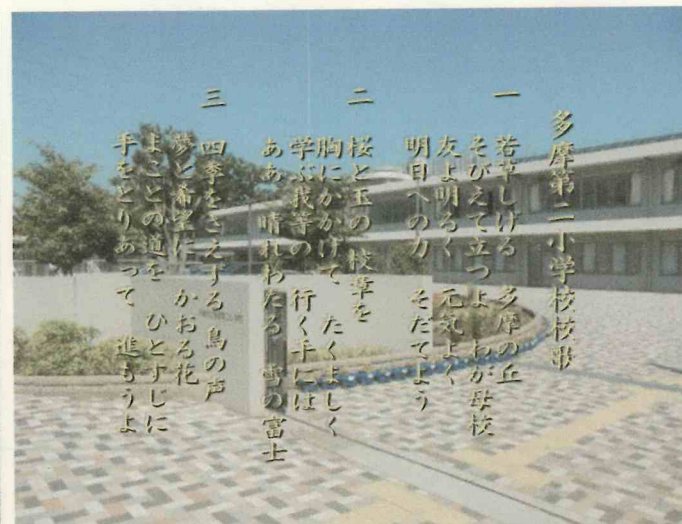
◆児童数 (令和6年5月1日現在)

学年	男	女	合計
1年-2学級	32	33	65
1年にじ	6	3	9
2年-2学級	29	24	53
2年にじ	7	3	10
3年-2学級	36	29	65
3年にじ	6	2	8
4年-3学級	31	40	71
4年にじ	9	4	13
5年-3学級	53	42	95
5年にじ	11	0	11
6年-2学級	33	42	75
6年にじ	10	0	10
通常 14学級	214	210	424
特別支援 8学級	49	12	61
合計 22学級	263	222	485



令和6年度

学校要覧



多摩市立多摩第二小学校

校長 井戸しのぶ

所在地 〒206-0001 東京都多摩市和田75番地
 電話 042-375-7051 FAX 042-337-7622
 URL <https://schit.net/tama/estamadain/>

交通 京王線 聖蹟桜ヶ丘駅
 バス乗り場1番より 高幡不動駅行/南大沢駅行/京王堀之内駅行
 2番より 帝京大学構内行/相模原駅行/高幡不動駅(三沢台)行(ミニバス)
 バス約10分 いずれも「多摩第二小学校」下車(徒歩1分)

◆教職員一覧

個人情報保護の観点から、掲載はしません。ご了承ください。

◆年間の主な行事(令和6年4月1日予定)

4月	前期始業式 入学式 健康診断始 保護者会 1年生ウエルカムウィーク 交通安全教室2年 全国学力・学習状況調査6年 社会科見学4年	10月	後期始業式 ハケ岳移動教室6年 交通安全教室1年 運動会 野外給食1・2年
5月	開校記念日 消防写生会2年 スポーツテスト 引き渡し訓練 東京都学力向上を図るための調査4~6年 社会科見学6年	11月	水泳授業 就学時健康診断 校外学習1・2年 音楽発表会5年 社会科見学5年 帰郷び月間
6月	イングリッシュウィーク 学校公開 セーフティ教室 こころの劇場6年 ハケ岳集団宿泊5年 社会科見学3年 小中連携 保護者会	12月	水泳授業 縄跳び月間 保護者会 エコプロ6年 大掃除 休み前集会 冬 季休業日
7月	ガサガサ体験3年 大掃除 休み前集会 個人面談 夏休み学習会 夏季休業日	1月	冬季休業日 休み明け集会 発育測定 書写展 持久走月間 社会科見学4年 新入生保護者説明会 進路個別工作・美術展
8月	夏季休業日 休み明け集会	2月	展覧会 社会科見学3年 読書週間 小中連携 保護者会
9月	発育測定 学校公開 道徳授業地区公開講座 ユニセフ募金活動 和田中体験6年 読書週間 前期終業式 秋休み	3月	6年生を送る会 卒業を祝う会6年 修了式 卒業式 春季休業日

二小ニコニコ ひまわりプロジェクト

東日本大震災の後に咲いた「ど根性ひまわり」・阪神大震災の後に咲いた「はるかかのひまわり」を育てることを通して、4つの願いの実現を図ります。

- ①命を大切に。 (生命尊重)
- ②自然を守り、育てる。 (環境教育)
- ③差別や偏見・いじめをなくす。 (人権教育)
- ④震災を忘れない。 (防災教育)

心をこめて大切に育て、ひまわりが大きな花を咲かせることにより、コミュニケーションの輪が広がり、子ども達の心や地域に希望の花が咲くことを願っています。



ICT 機器の効果的な活用

1人1台のタブレット端末、各教室にプロジェクターが整備され、学習内容に合わせた ICT 機器の効果的な活用を積極的に進めています。これまでの教科書やノート、プリント等による学習、図書等の活用と合わせて「分かる授業」を推進していきます。また、オンライン学習や長期欠席児童の学習保障や関係作りためのツールとして



多摩第二小学校の教育



学校教育目標

○考える子 ◎思いやりのある子 ○元気な子

目指す児童像

- ① 確かな学力を身に付け、自ら学ぼうとする意欲が高い児童
- ② 互いの人権及び個人の選択や志向を尊重し、豊かな感性をもった思いやりのある児童
- ③ 社会性や自主性があり、自立心が強く、自己調整力のある児童
- ④ 健康な心と体があることに感謝し、自身の健康の維持増進に向けて努力する児童

今年度の具体的な取組

- ◆学習指導の充実
 - ①指導法や評価の工夫改善、ICT 機器やプログラミング教材等の積極的な活用
 - ②「児童主体」の授業、「教師の指導力」の向上
 - ③実体験の重視、問題解決力を高める指導（ユネスコスクール活動）
- ◆生活指導の充実
 - ①基本的な生活習慣の確立、学習規律や生活上のルールやマナーの定着
 - ②組織的な生活指導体制の確立、常に危機管理意識をもつ、問題行動の早期発見・解決
 - ③特別支援教育コーディネーターを中心とした指導組織体制の充実、関係諸機関との連携
 - ④安全指導の計画的な実施、防災や安全に対する意識や実践力の向上
- ◆豊かな心を育む教育の推進
 - ①豊かな体験活動の工夫、社会の一員としての自覚や人間としての生き方について考える、多様性の理解や自他の生命や人権を尊重する心の育成
 - ②あいさつを大切に
 - ③児童の自己有用感と自尊感情を高める、いじめのない学校づくり
- ◆開かれた学校づくりと信頼される学校づくりの推進
 - ①豊かな自然環境を活用した教育活動の推進、積極的な情報発信（学校公開や行事の公開、校内掲示版・学校ホームページ・学校だより・学年通信・学級通信等での発信）
- ◆学校評価の効果的な活用
 - ③できる限り地域・保護者とふれあう機会を設けることによる信頼関係の構築
 - ④学校運営協議会との連携、コミュニティ・スクールとしての発展
- ◆幼・保・小・中の連携の推進と教育環境の整備、教育予算の効率的な執行
 - ①地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・学童保育所等との連携
 - ②掲示物・表示・花・絵・音楽等での豊かな環境づくり、清掃活動や校内巡視の徹底
 - ③予算の適正な執行、備品・消耗品の適切な管理と丁寧な扱い、節電・ゴミ減量、ペーパーレス
- ◆教職員の働き方改革の推進と明るく活力に満ちた職場環境の醸成、保護者・地域との連携
 - ①教職員が誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境の整備
 - ②効果的な OJT の推進、高学年を中心とした教科担任制の導入
 - ③研修等を通して教職員の専門性の向上、保護者・地域と連携した学習内容の確実な定着
 - ④保護者や地域、近隣大学等との効果的な連携、学びを支える教育資源の活用

地球環境を生かした教育活動 SDGs を踏まえた ESD の推進

大栗川やなな山など、地域の自然、文化、伝統、人材などを積極的に活用して、地域に根ざし地域と連携した教育を推進します。また、ユネスコスクール登録校として SDGs を踏まえた ESD を推進し、再生可能エネルギーを中心とした環境教育や人権教育の充実を図ります。学習の成果を発信することに重点を置き、問題解決能力を育むとともに、生命尊重の精神と豊かな心を育てます。



特別支援教育の充実

児童一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習や生活学習上の困難を改善・克服するため、必要な指導を行っています。また、特別支援学級「にじ組」及び特別支援教室「おおそら」と通常の学級との児童及び教員の交流・連携を一層進め、個に応じた指導の充実を図っていきます。



異学年交流・縦割り班活動

年間を通して、縦割り班活動や遊び、学校探検、地域探検、昔遊び等において異学年交流を行います。安全に配慮し、子供たちの主体性を大切に活動を実践していきます。豊かな人との関わりを通して、責任感を育て、協力することや我慢すること、信頼すること等の社会性を育みます。

